公的統計と統計教育

― 統計メーカーとユーザーとの対話が統計の精度改善に果たす役割 ―

統計教育大学間連携ネットワーク活動報告シンポジウム

2016年2月27日（土）

日本銀行 調査統計局　肥後　雅博

コメントや意見は、筆者個人に属するものであり、日本銀行の公式見解を示すものではない。

（問題意識）

- 統計は、様々な目的に幅広く利用されている。

  —— ①企業や個人による意思決定、②政府や中央銀行が行う経済政策の判断材料、③学術研究のサポート、④国際間の相互理解促進、など。

- こうした目的に向けて、統計メーカーは統計をどのように作成すべきか？　統計ユーザーはどのように利用するべきか？

- 統計教育の果たすべき役割とは？

目　次

１．公的統計を巡る環境の変化

２．統計ユーザーの不満と統計メーカーのぼやき

３．統計メーカーとユーザーは何をすべきか

４．統計教育の役割

１．公的統計を巡る環境の変化

（1）公的統計に対するニーズの高まり

①　より高い精度を持つ統計へのニーズ

- 低成長・低インフレのもとで、経済政策の判断材料として、より精度の高い統計が必要。

②　ミクロ統計へのニーズ

- 格差・ばらつきの増大や関心への高まりを受けて、よりセグメントされた統計（個票）が必要。

③　加工統計へのニーズ

- 経済の高度化・複雑化に対応し、GDP（付加価値）、（品質調整済み）物価指数、生産性指標が重要に。

（2）統計作成環境の悪化

①　経済の高度化・複雑化の進展

- 産業のIT化・サービス化・グローバル化の進展。対象把握（定義）は容易ではなく、統計作成が困難に。

②　経済の格差・ばらつきの増大

- 家計も企業も多様化が進んでいる。手をこまねいていると、統計誤差が増大する。

③　統計調査に対する協力度合いの低下

- 家計や企業の協力度合いの低下による誤差（統計の偏り）が深刻なものに。

２．統計ユーザーの不満と統計メーカーのぼやき

（1）統計ユーザーの不満の高まり

- ユーザーのストレスは高まる。すそ野も広がる。

① 統計は遅い。

② 統計は振れる。

―― やたらと振れる。基調が判断できない。

③ 統計は（事後的に）改定される。

―― 「後だしじゃんけん」の繰り返し。

④ 統計が正しいかどうか分からない。

―― 時間がたっても、結局、真実が分からない。

（2）統計メーカーのぼやき（本音）

① 統計精度に対する要求水準が高すぎる。

―― ばらつき増大を考えれば、誤差拡大は不可避

② 統計に対する利用ニーズが過大である。

―― 構造統計／景気統計のニーズは両立困難。

③ 統計調査環境の悪化への配慮が十分ではない。

④ 把握（定義）が困難な統計を作成するのは無理。

―― 研究開発・教育・商業の付加価値とは？

⑤ 「ひと」・「もの」・「かね」が足りない。

３．統計メーカーとユーザーは何をすべきか

（1）不信（不毛）の連鎖を防ぐために

- 統計委員会は、統計ユーザーのニーズを受けて、統計メーカーに精度改善を促している。しかし、その道のりは平たんではない。
- 公的統計は、国民の負担（租税、通貨発行益）のもと、統計メーカーに作成が委ねられているもの。統計メーカーのぼやきは理解できるが、まずは、統計メーカーが、もてるノウハウを総動員し、精度改善に最大限の努力をすることが必須。
- その前提のもとで、ユーザーに統計への適切な理解や利用を求めていくことが必要。

（2）統計メーカーは何をすべきか

① 統計技術的な視点からの精度改善に取り組む。特に、加工統計の精度改善に資源を投入する。

② 利用ニーズの絞り込み・分離による思い切った統計見直しを実施する。

③ 定義が困難な統計については、外部専門家の知見を全面的に取り入れて、作成を進める。

④ タブーを設けず、必要な要求を行う。

⑤ 統計ユーザーに対し、十分な情報開示を行う。専門度の高い情報開示に躊躇しない。

（3）統計ユーザーは何をすべきか

① 統計に対する理解（リテラシー）を高める。

② 精度改善のトレードオフの存在（例えば、振れと偏り）を認識しつつ、精度改善の要求を行う。

③ 十分な議論のもとで、統計の利用ニーズの絞り込みや分離に応じる。

④ 十分な情報開示のもとで、統計専門家による統計の作りこみを幅広く認める。

⑤ 行政記録情報、民間情報など公的統計以外の情報の利用促進をサポートする。

４．統計教育の役割

（統計教育の役割とは）

- 統計教育は、①統計メーカーの統計改善への取り組み、②ユーザーの統計理解促進、③メーカーとユーザーとのコミュニケーション（対話）の円滑化、を後押しをする役割を果たすことが望まれる。

—— 社会人向け教材の提供が一つの案。

（①統計メーカーの統計改善への取り組み）

- 精度改善には、調査設計や結果集計などにおいて統計技術の高度化を図る必要。統計メーカーの専門的な知見を高めるようなサポートが望まれる。
- 加工統計では、そうしたニーズは一段と高い。

（②統計ユーザーの統計への理解促進）

- 統計の作成方法、統計の誤差や限界についての詳しい教育が必要。特に、加工統計に関する専門的・実践的な知見提供は、決定的に不足。

（③メーカーとユーザーとのコミュニケーション円滑化）

- メーカーとユーザーとの有意義な対話のためのツール（共通理解・言語）の提供が重要。
- 統計メーカー（専門家）の信頼度を高め、統計の高度な作りこみを許容する風土の醸成が、精度向上には不可欠。